

ヒゼンクラゲ



三重県の定置網に入ったヒゼンクラゲ (岩田昭人さん撮影)

久保田 信

番外編22



ヒゼンクラゲは、和名に「ゼン」が付く大型の鉢クラゲとして、エチゼンクラゲ、ビゼンクラゲとともに「三前クラゲ」と呼ばれている。3

種とも食用クラゲとして有名である。
ヒゼンクラゲは田辺湾に一度もやって来たことがないが、近年、三重県の定置網にかかったり、高知県沖合で捕獲されたりしていることから、田辺湾付近でもひょっこり出現する可能性は高い。
というのもヒゼンクラゲは東南アジアに広く分布する。このことから、黒潮に乗って本州の太平洋岸に流れ寄ってくることも考えられるからである。ヒゼンクラゲは他の2

種と違って、色白であるのですぐ区別が付く。また、傘の表面に色白と黄褐色の微小な突起が多数あるのも特徴である。

肥前と呼ばれるように佐賀県に今でも多産する。有明海にはビゼンクラゲも生息しており、両者が生息するのに恐らく拮抗(きっこう)があるだろうが、2種のポリプがいっただいどこにいるのか、まったく分かっていない。このことは中国が原産地のエチゼンクラゲでも同様である。

三前クラゲ中最大であるエチゼンクラゲは、田辺湾に2005年に相当まれな例として流れ寄ったことは以前に何度か紹介している。それっきりであり、今後来ることはないと推測される。

一方、ビゼンクラゲは、もともとは備前と呼ばれるように岡山県に多産した。今はそう多くなく、有明海に多産する。高級なクラゲ食材として中国人が買い付けに来日するくらいである。

(京都大学准教授)